

クジラや貝のすむ海

環境

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

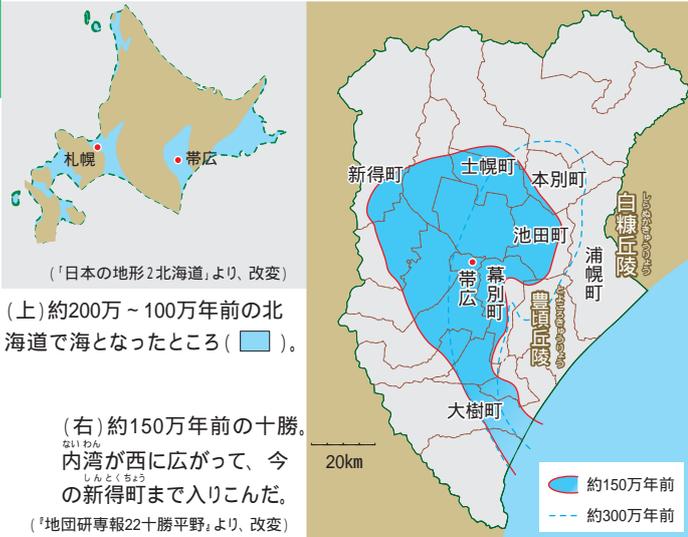
第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、そして未来へ

用語

さくいん



(日本の地形2北海道より、改変)

(上) 約200万～100万年前の北海道で海となつたところ(□)。

(右) 約150万年前の十勝。内湾が西に広がって、今の新得町まで入りこんだ。
(「地函研専報22十勝平野」より、改変)

十勝の東側では「^{しらぬかきゅうりょう}白糠丘陵」がさらにもり上がり、今の浦幌町や本別町も上昇していきます

そのため、海底は東のほうからだんだんと陸になっていきました。一方で、帯広から西の方では大地がしずみこんでいきます。

こうして、およそ160万年前になると、十勝平野にあった海(内湾)は西の方へずれるように広がりました。この時の内湾のことを「^{ながりぎのうみ}長流枝内の海」、そこにたまってできた地層を「^{ながりぎのうみ}長流枝内層」と呼びます。

長い間には海水面の高さが上がり下がりをくり返すため、^{ながりぎのうみ}長流枝内の海も浅くなったり、塩分がうすくなることがあり、湿原になるところもありました。



おくが「^{ながりぎのうみ}長流枝内の海」を泳いでいた「^{ながすくじらの仲間}ナガスクジラの仲間」の下あごの先の化石。全身では20mはあったようだ。手前は、今も生きているアカボウクジラの下あごの骨。(足寄動物化石博物館：?)

「^{ながりぎのうみ}長流枝内の海」にすんでいた「^{ニホンアシカ}ニホンアシカ」の化石。この腕の骨(上腕骨)。(足寄動物化石博物館)

クジラやサメが泳ぐ内湾

この、十勝中央部に広がっていた^{ながりぎのうみ}長流枝内の海は、北は士幌、東は池田、西は新得まで広がり、大樹のあたりで太平洋とつながっていました(大津で外海とつながっていたという説もあります)。

ここは寒流が流れこむ冷たい海で、今では北極海にすむセイウチが暮らし、クジラやサメも泳いでいました。

また、アシカの仲間であるニホンアシカもすんでいました。



貝や有孔虫も

そのほか^{ながりぎのうみ}長流枝内の海には、キサゴ、エゾタマガイ、エゾバイ、エゾタマキガイなどの貝、ウニの仲間(カシパン：^{ゆうこうちゅう}p32)有孔虫という1～2mmのカラを持った単細胞生物などがすんでいました。

貝の種類は「十勝大百科事典」ほかより



手のひらの上の有孔虫の化石。



顕微鏡で見た有孔虫の化石。

(写真：藤山広武氏)



およそ150万年前の「^{ながりぎのうみ}長流枝内の海」に生きていた貝の化石。

(足寄動物化石博物館)

1 ニホンアシカ(日本海驢)：海ぞいに暮らしはアシカ科の仲間。オスは体長240cmにまでなる。日本沿岸で子どもを産み育てる、唯一のアシカ。カムチャッカから九州まで生息していたが、1975年に確認されてから、見られていない。絶滅したと考

えられている。

2 足寄動物化石博物館(あしよらどうぶつかせきはくづかん)：足寄町郊南1丁目。電話 0156-25-9100 火曜日休館(p27)

地中にねむっていた海の生き物 ... 貝化石を探す

化石や地層の観察は、土地の所有者に、許可をもらってからおこなひましょう。

幕別町にある稲土別川。その支流、沖田川ぞいによっていったところで、150万年くらい前の「長流枝内の海」の貝化石が見つかっています。

道から丘の方へ少し登り、スコップで穴をほると、ザクザクという感じで貝化石が出てきます。ふるいを使って砂を落とし、貝化石を取り出します。

とくに、エゾタマキガイという貝がよく見つかります。この貝は今でも、本州東北部以北の比較的浅い海（細かい砂の底）にすんでいます。ほかの貝も見つかります。

見た感じはふつうの貝ガラと同じですが、これは人が残した『貝塚』ではありません。

およそ150万年前という大昔、このあたりが海であったころに死んだ貝が、土砂に深くにうまることで残された化石なのです。

(化石とは p21)



化石があった場所(豊岡)と右の露頭(稲土別)。幕別町。



丘の斜面をほると、「長流枝内の海」の貝化石がたくさん出てくる。円内写真の、白っぽいものが貝化石。



長流枝内層。海にたまった時は水平だった地層が、東側の上昇でかたむいている。

(写真は3枚とも帯広百年記念館「地質講座」： 3)

穴のあいたエゾタマキガイ ... 観察のポイント



(上) エゾタマキガイの化石。(川名淳二氏)

(上2枚)エゾタマキガイの化石。穴は、エゾタマガイ(右上)など巻き貝に食べられたあと。

(右)有孔虫の化石。1~2mmの大きさ。(写真:藤山広武氏)

今では海よりずっと高い場所なのに

豊岡の貝化石が出る場所は、標高(海面からの高さ)80mくらいです。かつて海の底だった場所がこの高さだということは、この場所が地球の力で80m以上もり上がったのが、海の高さが80m以上上がったか、両方あわせて80m以上になったのか、のどれかだということです。

丸い穴は食べられたあと

エゾタマキガイのカラに丸い穴が開いていることがあります。これは、肉食の巻き貝(エゾタマガイなど)に食べられたあとだと考えられています。

砂は「海砂」

貝化石は砂にまみれています。この砂は「海砂」です。この海砂をよーく見てみると、1~2mmくらいの、ミニミニ・アンモナイトのようなものが見つかります。これは貝ではなく「有孔虫」という、細胞を1つだけ持つ生き物の、カラの化石です。

ひょうほん 標本にする

貝化石が採集できた時は、標本にしましょう。保存のためにひと手間かけましょう。

水洗いしてかわかす。
やわらかい歯ブラシで、残った砂などを落とす。
木工用ボンドを水で2~3倍にうすめて、うすくぬってかわかす